



特徴あるループ橋は新しい観光スポット

物流と観光を支える新しい道

志津川漁港と水産加工施設などがある商工団地を結ぶ志津川漁港臨港道路「はまゆり大橋」が7月16日(日)に開通しました。
これにより、水産物の円滑な流通と観光客の誘客など、地域振興に効果が期待されます。

臨港道路開通式

開通式は午前10時30分から県道側の橋入口を会場に開催され、関係者や地域住民約200人が出席し、臨港道路の完成を祝いました。

大森創作太鼓「旭ヶ浦」の勇壮な演奏がオープニングを飾り、あいさつなどが行われた後、YOSAKOIグループの海童いしやりが華麗な踊りで式典に花を添えました。

テープカットとくす玉開破の後に渡り初めパレードが行われ、参列者や渡り初めに集まった町民の皆さんは、「はまゆり大橋」から望む景色を楽しみながらゆっくりと歩いて渡りました。

最後に、餅まきが行われ、オープン初日となった「サンオーレそではま」の海水浴客も集めて、祝い餅が振る舞われました。

地域産業の振興に期待

志津川漁港は、気仙沼漁港と石巻漁港の間に位置し、沿岸及び浅海養殖漁業が盛ん

な漁港として、また古くから漁業生産物の流通加工拠点として重要な位置を占めています。

以前は、本浜地内に魚市場がありましたが、地域水産業の振興などを目的に県が漁港整備事業を進め、平成7年9月に新漁港が供用開始となり、平成8年4月には、新魚市場が現在場所に移るなど、水産基盤の整備が進められてきました。



しかし、荷物を運ぶ大型車が、商工団地や仙台、気仙沼まで輸送するには、屈曲する県道または幅員が狭い市街地を通らなければならず、円滑な輸送に支障をきたしていました。

臨港道路の開通により、安全で円滑な輸送経路が確保され、水産業の活性化が期待されます。

また、はまゆり大橋は、風光明媚な湾内を一望できる新たな観光スポットとして、観光客誘客にも期待されています。

高低差は22メートル

開通した新設臨港道路は全長520メートルの県道で、うち橋りょう部「はまゆり大橋」

は144・5メートル。片側1車線の対面車道で、東側に幅2メートルの歩道があります。橋りょう部は、高低差約22メートルをつなぐためループ状に造られ、近年危惧されている地震に耐える構造となっています。

観光客の避難路として

海水浴場サンオーレそでは、7月17日(月)、津波避難訓練が行われ、新設の臨港道路が避難路として利用されました。

昨年の8月16日には震度5弱の地震があり、町内に約40センチメートルの津波が襲来しましたが、その前に行われた避難訓練の効果があって、地震直後に係員が約500人の海水浴客を高台に避難誘導させ



湾内を望みながら、はまゆり大橋を渡り初め



臨港道路を使って海水浴客の避難訓練

たことで、被害に遭わずに済みました。

近い将来発生する宮城県沖地震などにより津波が発生する恐れが生じた場合、新設の臨港道路が、海水浴客や釣り客などの避難路として使われ

ることになります。

※訓練には海水浴客全員が参加し、約10分で避難が完了しました。ご理解とご協力いただき、ありがとうございます。